

## 八日市場城

匠瑳探訪

178

「御城印」が全国的に静かなブームになっていると、最近知りました。

神社や寺院を参拝して受ける「御朱印」と同じように、各地の城や城跡を訪ねポストカードサイズの紙に、城名や城主の武将の家紋が書かれ、印が押されたのが御城印とされます。

昨年末で千葉県内には40余りの御城印があるとされ、匠瑳市でも発行するというところで調査に行きました。

市内の城跡調査は昭和50年代に行われ、20を越える中世城郭が確認されました。その代表的なものとして「八日市場城」が匠瑳市の御城印になりました。

八日市場城は1470年

代頃に匠瑳地域に進出したとされる押田氏の居城でした。しかし当時の調査では、現在の若潮町が宅地造成される前に

「要害台」と呼ばれたことからその場所

と、天神山公園のある台地に「新城」という字名があ

ったことからそこを「新城址」と呼び、八日市場城をどちらにするか、あるいは2カ所合わせるかを検討しましたが、結論には至りませんでした。築城時期が要害台に比べ、遅れて築かれたので新城となったとも考えました。

天神山公園が整備されたことで、昭和50年代の調査時と比べ、城郭だった土塁や空堀などの遺構がより見やすくなり、この場所が八日市場城と呼ぶにふさわしいと感じました。

市内寺院の記録に、「1547年6月16日、八日市場城主押田氏始め200余人(800余人とするものもある)討ち死に」とあり、合戦の舞台になったこともあったようです。

「八日市場城の御城印」発行により、地域の歴史に関心が深まることを望みます。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

問秘書課広報広聴班

☎73・0080



新城という字名がある天神山公園